カウンセリング・マインドを生かした個々とのかかわり方

～児童の内面的理解をとおして～

目　次

Ⅰ　テーマ設定理由……87
Ⅱ　研究仮説……88
Ⅲ　研究内容……88
　1　学校教育相談の基本的な考え方……88
　　(1)　生徒指導と教育相談……88
　　(2)　学級担任による教育相談……88
　2　カウンセリング・マインドとは……89
　　(1)　教師の基本的態度……89
　　(2)　カウンセリング・マインドの教育的効果……89
　3　児童理解について……90
　　(1)　児童の何をどのように理解するか……90
　　(2)　児童理解の態度……90
　　(3)　児童の問題の理解……91
　4　カウンセリング・マインドを生かした実践例……93
　　(1)　カウンセリング・マインドを生かす教師……93
　　(2)　「おしゃべりノート」をとおして……94
　　(3)　問題をもつ子への支援……97
　　(4)　学級通信をとおして……102
Ⅳ　研究の成果と今後の課題……105
　≪引用・参考文献≫……106

浦添市立前田小学校教諭
宮　城　久　子

カウンセリグ・マインドを生かした個々とのかかわり方

～児童の内面的理解をとおして～

浦添市立前田小学校　宮　城　久　子

Ⅰ　テーマの設定理由

新1年生を平成元年度までの4ケ年間担当し，いろいろな子どもたちとかかわって来た。特に昨年の学級は，個性的な子が多い学級集団であった。例えば，T君は，粗野で多動で自己中心的な子であったが教師におんぶされたり，しがみついたりすることが好きな子でもあった。それを教師が受け入れていると，学級の子も恐がらずに世話をする子がでてきた。教師の言葉かけ一つで学級集団の子どもたちが反応することを知り教師の一言がいかに重大で意義あることかを痛感した。

しかし，今年度は，3年生担任となり4月，5月は子どもたちも緊張し，素晴らしい学級に思えたが，6月頃から自我を全面に出す子が増え，自分の意に反する方へどんどん進行したまま一学期終業となった。

子どもたちへのかかわり方を振り返ってみると，3年生は学校にも十分なれ，しっかりした子どもに思え，潜在的に一年生と比べていたのかもしれない。

3年生のB君は，算数の学力はトップクラスであり，語彙も豊富な子である。4月5月は積極的に学習し，メモ日記の漢字のチャンピオンにも日々挑戦し，そのつど励ましてきたが長続きしなかった。

5月の母の日の作文には，「お母さんへ，ぼくを8年間おこってくれて大へんごくろうさま。」と書き，絵は，「ぼくのお母さんは，寝ることが趣味です。」と発表した。家庭訪問では母親自身も「この子とは合わず，父親の言うことは素直に聞く。」と話した。

B君が気になる行動をとり始めたのは，6月のプール指導が始まった頃だろうか。B君は，初めはAグループ（よく泳げるグループ）にいたが，しばらくして「Bグループに行きたい。」と申し出があり，本人の意向を尊重した。6月の下旬からか少年野球チームに入りスポーツマンでもあるB君だが，ポートボールのゲーム中やる気がなくガードマンやゴールマンのじゃまをしているのである。授業中もまわりの子との私語やいたずら，暴力などのトラブルが増えだした。休み時間は，画鋲とセロテープを手につけ女子を恐がらせた。7月初旬の個人面談では，「B君からいじめをうけている。」という女子の親からの相談もあった。清掃中は，気の合う子と窓にこしかけおしゃべりをしたり，ほうきを振り回したりして遊ぶことが多くなった。忙しさに追われて，悪循環と知りつつもその場その場で注意することが多くなった。例えば，「まわりに迷惑でしょ。隣の子だって落ち着いて勉強できないよ。」「どうしてそんなことをするのB君だってたたかれると痛いでしょう。」などと表面的な現象のみをとらえて，感情的になっていたように思う。

問題を持つ子供達は，何も考えず，感じず，いたずらに問題行動を繰り返していたのだろうか。

誰も好き好んで悪い状況をつくりだしているのではないと思う。考えられることは，過去の育成歴（母子関係・家庭関係），地域環境，社会環境，教育環境，性格などが複雑に作用し，その不満がいろいろな形の問題行動として表れているのではないだろうか。複雑にからまった問題行動を解

がいろいろな形の問題行動として表れているのではないだろうか。複雑にからまった問題行動を解きほぐすには，担任と子どもが好ましい人間関係で結ばれていなければならない。そこで，教育相談についての理論を深め，学級担任による教育相談の進め方をまなびたい。その中でも特に問題を持つ子へのかかわり方や父母への対応のしかたを研究したい。さらに，担任が子どもの感情をありのままに受容し，父母共に共感し合って子どもの個性にかかわっていくカウンセリング・マインドを生かすことによって，問題を持つ子への適切な援助ができると思い，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説

学級作りの中で個々を生かすためには児童の内面的理解を深め，カウンセリング・マインドで子どもに接することによって問題を持つ子への適切な援助ができ，一人一人の子どもが生き生きと活動するであろう。

Ⅲ　研究内容

1　学校教育相談の基本的な考え方

(1) 生徒指導は，「人間の尊厳を絶対的なものとして，一人一人の児童を常に目的そのものして扱うことを基本とする。これは，内在的な価値をもった個々の児童の自己実現を助ける過程であり，人間性の最上の発達を目的とするものである。」

教育相談は，「一人一人の児童の発達と教育にかかわる諸問題をめぐって，本人及びその保護者などに必要な心理・教育的援助を行うものであり，それぞれの当事者が問題を柔軟にとらえ直し，その解決に向けて主体的に努力する過程を尊重し，その過程が円滑に生じるように側面から可能な援助をすることを基本としている。」

生徒指導と教育相談は，一人一人の個性的，全人格的発達を目指す教育のために重要な役割を担うものである。

(2) 学級担任による教育相談

学校教育相談は，基本的には次の二つの立場がある。

① 狭義

校内の教育相談を中心とした，教育相談係またはスクール・カウンセラーによる相談活動をいう。

(ア) 問題を持つ児童への治療的相談（個別，集団，自主来談，呼び出し相談など）。

(イ) 予防的・開発的相談（児童生徒の成長，発達過程でだれもが出会う問題の解決を助けることによって，成長を促進する相談や援助）。

② 広義

担任およびすべての教師が，カウセリング・マインドをもって教育活動すること。

学級担任の教師は，校内の相談係や初めて出会う相談機関の専門家に比べて，児童との間に日常の交流による親和関係と相互関係がかなり深められているので，よりよい相談関係で援助の効果を上げることができると考える。

2　カウンセリング・マインドとは

日常の教育活動の中で児童をどう理解し，どうかかわることが児童を育てることになるのか。自分の考え方や態度を見つめ直してみたい。

カウンセリング・マインドとは，ロジャーズは，児童のパーソナリティが建設的な方向へ変化するための必要条件として，児童に対する教師の「ある種の態度」であると述べている。この「ある種の態度」を木原孝博氏は，受容の精神，受容の態度であり，これを「カウンセリング・マインド」と呼んでいる。では，教師の児童にする「ある種の態度」とは何か。ロジャーズは「ある種の態度」として次の３つ（①②③）をあげている。（木原孝博氏「カウンセリング・マインドと教育活動」）

(1)　教師の基本的態度

①　一致

教師としての役割演技をやめて，教師のほんとうの姿で児童に接すること。ともに問題をもった人間どうしとして努力し合う関係が受容を成立させ，児童が心を開くようになる。

②　共感的理解

児童の必然性言い分に即して理解することである。教師の価値尺度で，価値的にとらえることではない。教師の態度が理解的受容的であれば，教師の指導をすなおに受け入れるようになる。

③　無条件的積極的配慮

一人一人の児童は，この世に二つとないかけがえのない絶対的存在者である。どんなに出来が悪かろうが，どんな悪い行動をしでかそうが無条件に積極的に尊重することである。児童は教師の無条件的積極的配慮を認知すると，情緒的におちついてきて，すなおになる。

(2)　カウンセリング・マインドの教育的効果

①　学習効果が高まる。

カウセリング・マインドで対応すると，児童は被包感（赤ん坊が羊水に浮かんでいる状況）を感じ，情緒が安定してくる。生活が楽しくなり，生活意欲が自然発生し，さらに学習効果が高まってくる。

②　心を開いてすなおになる

カウンセリング・マインドで受容すると，心を開き，すなおな態度になる。児童自らが，自己の態度を改めていく。

③　集団が形成される

教師が一人一人の児童に対してカウンセリング・マインドで臨むと，教師の受容的態度を学習し内在化して，仲間を受容し合うようになる。

④　教師を受け入れる

教師がカウンセリング・マインドで児童に接すれば，児童を教師受入れ信頼関係ができる。このように，個々の児童の自己実現をめざす教育のためには，教師がカウンセリング・マインドで児童に接し，より深く児童を理解していくことが必要になってくる。

（自己実現とは，個人が自己の内に潜在している可能性を最大限に開発し，実現して生きて

いることである。…カウンセリング辞典「國分康孝　編」）

3　児童理解について

(1)　児童の何をどのように理解するか

中野武房氏は，児童を理解する方法，内容を次の３つに分類している。

〔　表１　理解の方法，内容　〕

呼　称	理解の方法	理　解　の　内　容
第一理解	主観的理解，印象的理解 外観的理解，直観的理解	児童生徒の容貌，態度，動作などの外面的なものから，観察者の経験，価値観をもとに，性格，人間性，能力等を理解すること
第二理解	客観的理解，診断的理解 分析的理解，科学的理解	調査・検査，家庭環境，生育歴，友人関係，学業成績などの客観的事実をもとに，性格，適性，進路，能力等を理解すること
第三理解	共感的理解，心情的理解 内面的理解，関係的理解	児童生徒個々の価値観，動機，悩み，心情などを，その子どもなりの立場に立った受容的な姿勢で理解すること

①　第一理解

この方法は，まれには，その理解が的を得ていることもあるが，多くの場合，独善的な．ステレオタイプ（「紋切り型」単純・誇張された固定的イメージや概念）的な理解に終わることが多い。

②　第二理解

この方法は，独自的な存在としての児童をとらえることは難しく，機械的，評価的な理解に終わる傾向がある。

③　第三理解

この方法では，遅刻する子はだめな子というような判定的理解でなく，現在その児童が感じている気持ちを，児童の立場に立って，あるがままを理解しようとする方法である。

教育相談の場合に必要な理解の方法として，この第三理解が最も重要なのである。

(2)　児童理解の態度

教師が児童を正しく，あるがままに理解しようとするとき，教師の態度としてどのような事が望まれるかについて考えたい。

①　教師自身の自己理解

一人一人を生かす児童理解をすすめるには，児童を肯定的に理解し個性の伸長を図ることを念頭においてすすめる必要がある。そのためには，教師自身が子どもをどのように理解す

る傾向があるかを理解し，子どもに対して肯定的理解が行えるように自己変革することが大切である。

② 受容的姿勢

教師の受容的態度を子どもが実感したとき，子どもは自分の気持ち，感情を理解してもらえたことから精神的に安定し，教師からの言葉を聞き入れる準備ができる。

③ 統合的理解

登校できないことのサインとして身体的異常を訴えているものと，心身相関の立場から統合的に理解する必要がある。特に，言葉で上手に説明できない低学年の児童は，サインとしての身体異常を示すことが多いということに留意しなければならない。

④ 背光効果に惑わされない

児童の一面に惑わされることなく，冷静に広い角度から理解することが大切である。

「何かよく目立つ良い（悪い）特徴をもっていると，その人のもっているあらゆる特徴を肯定的（否定的）に見てしまうという傾向」である。

⑤ 多面的理解

児童を理解するとき一人の教師の理解だけでは，一面的，主観的になりやすい。一人の児童を複数の目で見る方法として事例研究をもつ。（学年会，校内研修会）

⑥ 調査・検査の活用

児童をより深く理解するために，科学的・客観的な資料である。調査・検査結果の活用がある。

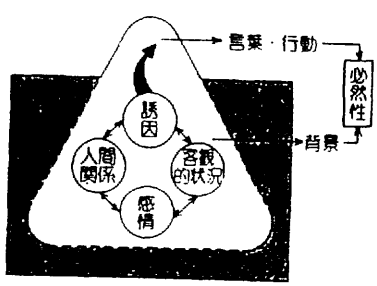
(3) 児童の問題の理解

① 個性的・統合的理解

学級担任になると，必ずといっていいほど学級の中に一人や二人は気になる児童がいる。この児童をどのように見るかによって，その児童とのかかわりが変わってきてしまう。

児童が示すさまざまな言葉や言動の背景〈図1〉には必ずその誘因，人間関係，おかれている客観的状況，個人の感情が潜んでいて，それらはまさに個別的である。

言葉・行動の背景



〈図1〉

ともすると，問題行動という現象面のみにとらわれて，その現象をなくすことにあくせくし，ときには，それに振りまわされたりすることがある。考えてみると，そのような問題行動をおこすには，それなりの心の動きがあってのものである。それが，盗みやうそとしてあらわれたり，口をきかないということなどの形に現れるにすぎないのである。あくまでも，その児童を「統合された全体として生きている児童」としてとらえていかないと，本来的その児童を見失ってしまうことになる。表面の言葉・行動だけでなく，背景にも深く眼を向けていくことが大切である。教師はなぜ，そういうことが起こっ

てくるのか理解しないで，ただ目に見える行動をなくそうとして上から圧力をかけて押すような「まりつき指導法」（小泉英二　説）にならないように心がけていきたい。

② 問題の子はつくられる（要因と条件）

(ア) 乱暴な子

〈感情の発達の未成熟から〉

過保護，子どものいいなりになるような育てかたをすると，欲求をおさえる訓練が不足し少しでも思うようにならないと爆発がおこる。社会的にも未発達になるので，集団生活や友達との遊びもうまくいかない。外ではおとなしく，家では乱暴になりがちである。

〈欲求不満から〉

家庭でのしつけが厳格すぎて，命令，干渉，禁圧，拒否などの状態が続くと，子どもは憎しみ，怒り，嫉妬，敵意，反感，不安，劣等感などのはげしい感情がおこり，情緒的にたいへん不安になる。激しい攻撃，破壊，凶暴などの行動も現れてくる。

親の無関心や放任も子どもを乱暴にすることがある。親の愛情を確かめようとしたり，自分の存在を示そうとして乱暴に出ることがある。家の中でよりも，外でみられることの方が多い。

〈刺激に対しての過敏な反応から〉

養育態度が神経質で，不安定で，たえず緊張感が強いと，子どもは神経過敏になりがちですこしのことでもすぐ，いらいらしだす。対人関係での情緒的安定が乏しく，家でも外でも，乱暴はいつでも誘発される。

〈脳の障害から〉

出産時の障害やその後の病気や事故などのために，脳の機能に異常がある場合で，発作的なものが多い。ぜひとも専門医の診断が必要である。

アメリカのレオ・カナーは「児童精神医学」なかで子どもの症状は，その子どもに問題なり，病気のあることをまわりに知らせようとしているシグナルであるといっている。

いやなシグナルとしてではなく，教師と子どもの心の触れ合いのチャンスになる大切なものとして受けとめたい。

(イ) 落ち着きのない子

〈家庭環境から〉

人の出入りの多い家庭，住居が繁華街にある多人数の家庭，住居と店が同じ，始終引越しばかりして住居が落ち着かないなどである。親子関係では，一貫したしつけがない，注意や干渉が多い，あまやかしが多く子どものいいなりになる場合である。家庭内の不和など情緒が不安定になり落ち着きがなくなってくる。

〈エネルギーの発散から〉

幼児期や学童期からはじめに多くみられる。あふれるような心身のエネルギーをもった子どもの生来の傾向に負うところが大きい。

〈身体の故障や脳の故障から〉

虫ささされ，かいせんなどの身体的刺激，虚弱，蓄のう症，視力障害，仮死出産，ひきつけ，

脳炎，てんかんなど脳障害をもっている子どもは多動的になる場合がある。

落ち着きのない子の具体的指導として，責任を持たせることが大切である。徐々に小さな役割から与え，所在を安定させ，果たせた満足感を認めてやることが必要である。

感情のはけ口として，自由にしてよい場合は，徹底的に自由にしてやり，授業中優しく声をかけてやるだけでも，閉ざされた子どもの感情が安定し，落ち着きへとつながってくると考える。

③ 親との連携

行動観察をする場合，多くの場面のようすをとらえ分析してみることが大切である。このためにも親との密接な連携が必要になってくる。親の見方，教師の見方を突き合わせていくところに具体的な指導の手がかりを得ることができるであろう。

子どものことで苦しむ親は，責められ非難を受ける人ではなく，助けを求めている人である。子どもをどうしたらいいのかをともに捜し求めてくれる人が必要なのである。親の願いや悩み，訴えを温かく受け入れる態度を持ち，共に問題を解決していきたい。

4 カウンセリング・マインドを生かした実践例

教師は，一人一人の児童について，できること，興味・関心を持っていること，性格の特徴を総合的にとらえ，可能性を引き出すかかわり方に努める必要がある。

カウンセリング・マインドの出発点は“相手の気持ちがわかる”ことである。しかし相手の立場に立って考えようとしても，つい自分の枠組みで見てしまうのである。

また，評価したり批判したりしないで，あるがままの相手を受け入れようとしても，言葉づかいや態度が気になって受け入れられない場合もある。

しかし，こうした経験を繰り返しながらもその中で少しでもこちらの枠組みを広げる努力を続けていきたい。

そこで，小泉英二氏は，「カウセリンク・マインドを生かす教師の条件」を次のように挙げているので，指導の指針にしたい。

(1) カウンセリング・マインドを生かす教師

① 知識中心よりも，児童の人間性を尊重する教師
② 児童の心－感情－を大切にする教師
③ 児童の行動は，関係によって変わることを知っている教師
④ いつでも行動の背景にある条件やプロセスを理解しようと努める教師
⑤ 児童に教えられる教師
⑥ 一人一人の独自性を大切にする教師
⑦ クラスのメンバーの相互作用を大切にする教師
⑧ 自分の限界を率直に認められる教師
⑨ 気持ちを受容しても行為を認めない教師

(2) 「おしゃべりノート」（交換日記）をとおして

一人一人の児童と日常かかわる中で，教師として指示したり，教えたり，注意したりする上下関係のみでかかわるのではなく，児童と横並びの関係を持つことを心がけることによって，真の共感的理解を築くことができると考える。「おしゃべりノート」をとおして個々との交流を深め，より親和的関係（ラポート）を結んでいきたい。

児童の内面的理解をする上で継続的に心の変化を知る手がかりとして日記がある。その日記も児童の喜びや悩み，願望，欲求など日々の心の動きが見えるような内容でありたい。

これまで実践してきた「メモ日記」は，ほとんどの子が楽しかったこと，嬉しかったこと，頑張ったことなどが多く，数人の子の中には喜怒哀楽を記したり，観察力・洞察力のあふれている子もいた。しかし，学級の中のわずかではあるが，出来事を中心にした記述を多く書く子もいる。そのため学級全員の内面を理解するには，もう一冊「おしゃべりノート」を作成し，漢字や字のていねいさなどにこだわらず，また期日もいつでも自由に出せるようなものにした。

① 実施上の留意点

・交換日記は，児童一人一人の内面をありのまま（本音）に記するので人には見せないし，児童との秘密は守ることを約束しておく。（実施してみて3年生の場合は，それほど人には見せたくないという思いはなく，教師とのつながりの喜びの方が大きく，しかも本音を書くことができる。）

・あくまでも児童の内面を記することが目的なので字をていねいに書くとか，習った漢字を使って書くなど記述についての指導はしないように心がける。

・提出も毎日ではなく，一人一人の児童の心の変化に応じて随時だすようにし，未提出の子には最近変わったことはないか声かけを忘れないようにする。

② 「おしゃべりノート」の実施について

(ア) 実施開始　平成5年10月29日2校時

(イ) 対　象　本校3年3組　男子18　女子15　計33（欠席女子1　未記入男子2）

③ 道徳の授業を利用し，ノート作成

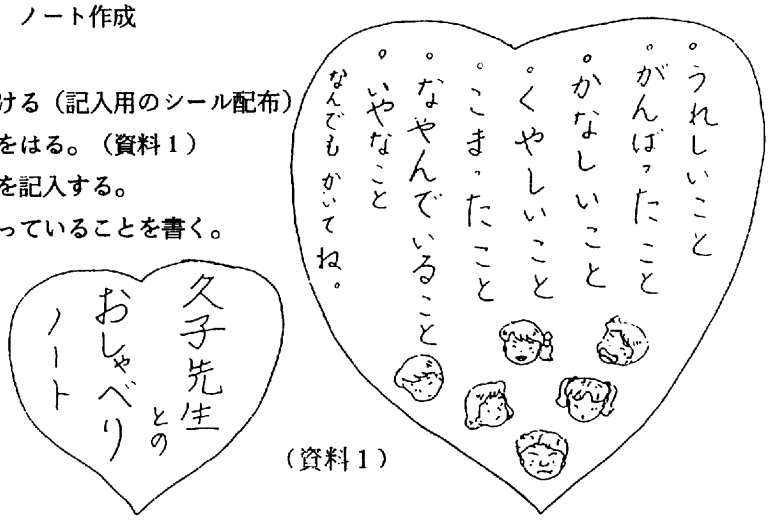
・12行ノート配布

・表紙に好きな題をつける（記入用のシール配布）

・1ページにハート型をはる。（資料1）

・2ページ目に日づけを記入する。

・近ごろの出来事で思っていることを書く。



（資料1）

④ 「おしゃべりノート」の内容分類

	悩み・困っていること		嬉しいこと		頑張ったこと		悔しいこと	
男子	珠算のテストが80点とれない	1	ファミコンができる	3	授業態度とクラスの協力	2	運動会で白組が負けた	1
	授業中みんなが静かにしてくれない	1	先生に会えたこと	2	運動会のリレー	1		
	日記になにを書こうか	1	リレーで一位になったこと	1	そうじと珠算	1		
	姉とのけんか	1	珠算の試験が合格しそう	1	あだ名で呼ばれても平気	1		
女子	男子のふざけ	2	先生に会えたこと	5			運動会で白組が負けた	1
	お母さんの帰りが遅い	1	珠算の7級が終わる	1			珠算の試験が落ちた	2
	妹が悪口を言われている	1						
計		8		13		5		4
その他	交換日記をつけている（秘密）	2	母が困っていること	1	（女子）			

⑤ 児童の悩みについての教師のコメント

児童の悩み		教師のコメント	児童の特徴
男子	珠算の模擬テストが80点とれない	うちでも練習しているのかな。お母さんやうちの人といっしょに頑張ってみるといいよ。ファイト！ファイト！なにもしないで80点はとれないと先生は思います。	明るく活動的。やや落ち着きにかける。自主学習なども雑で簡単なものになりがちであまりやってこない。
	授業中みんなが静かにしてくれない。	学級のことを考えて偉いね。 S先生に相談してみるといいですね。帰りの会でお知らせすることもいいと思います。頼りになるK君，委員長と力を合わせて頑張ってください。	一学期の委員長となり，しっかり者で人望が厚い。
	お姉ちゃんとけんかをしていやになる。	どんなことでけんかになるのかな。 「お姉ちゃんへお願い」と手紙を書いたりお母さんとも困っていることやいやだなと思っていることを話すといいと思います。	明るく活動的。授業中落ち着きがなく，私語が多い。
	最近，日記に何を書こうか悩んでいる。	一日一日の出来事を毎日書くことは大変でしょうね。たくさん書く日も，少し書く日もあっていいと思います。	落ち着きがあり成績が良い。一学期は，なにげない日常生活の出来事を詳しく日記に書く事が多かった。 母親がまじめに点検し，サインをしているためか一日もかかすことなく続けている。
女子	お母さんの帰りが遅いこと	「お母さんへ・帰りが遅くて寂しいです」と手紙を書いたり，お母さんと「おしゃべりノート」を作るのもいいかもしれませんよ。	三人家族である。（母・本人・祖母）母親は，市内のデパートに勤務している。優しくひかえめである。
	妹が口びるに怪我をして，からかわれた。	妹思いの優しいC子さんですね。早く妹の口びるの怪我がなおるといいね。	まじめでしっかりしている粘り強く落ち着きがある。

児童の悩み		教師のコメント	児童の特徴
女子	男子がふざけたり，女子をいじめて泣かしたりする。	友だちと声かけ合って，いいクラス作りに頑張ってね。 S先生にも相談してみてください。 A子さん頼りにしていますよ。	成績が良く感受性が強い。 役員への立候補はしないが発表したり，リードすることを喜ぶ。人前で注意されることをとてもいやがるが他人には厳しい。
	グループにふざける子がいて困っている。	N子さんはしっかりしていますね。 グループのみんなで「I君はやればできる。いいところもある。」と励ましてみてはどうですか。	一学期の役員。やさしく，思いやりがある。落ち着きがあり，よく意見を発表する。

⑥ 「おしゃべりノート」についての考察

- 「先生に会えて嬉しい」（7人）は，久しぶりに会ったので子供達の率直な気持ちの表れだと思う。
- 珠算塾に通っている子がわりといて，熱心に珠算に励んでいることがうかがえる。（6人）
- 運動会後まもないので，リレーのことや白組が負けたことなど強く残っていたことを伝えたかったと思う。（4人）
- 授業態度の男子のふざけ（4人）については，担任が変わり子供達の甘えが見受けられる。そのためグループでの話し合いの必要性を感じた。
  （補充の先生と相談し，グループで話し合って記入する。資料2・本人のみ配布）
- いじめで登校拒否などの重大な悩みは今回はなかったが，今後もありのままに本音で書いてくれることを望んでいる。
- 今まで活動的でふざけてばかりいると表面的な見方をしていた子が「悪い点しか取れないので悩んでいる。」とか，「先生と会えてやる気がでてきた。」（資料3）等，一人一人の個々の内面を見ることができた。これからもカウンセリング・マインドを生かして児童の内面を敏感にキャッチできる心の目を持ち続けたい。

(3) 問題をもつ子への援助≪落ち着きがなく，乱暴で自己中心的な児童への支援≫

① 児童名　T君　平成4年度1年生（男子）

② 問題の概要

入学して二ケ月たっても授業中ほとんど席につかず，他のことをしたり時には他の学級へ行くことがあった。クラスの子供達の頭を奪い取ったノート・本・ふでばこなどで叩いたり，首をしめることもあった。時々女子に抱きついたり，ほっぺたに口びるをつけたり，スカートめくりや女子のズボンの中に手を入れたり，裸になって水着に着替えたりした。清掃中は，毎日散水を遊び半分にし，ヘラをつきつけて脅したりすることもあった。

③ 児童理解のための資料

(ア) 家庭環境

・家族構成：父親・母親・兄（中１）・弟（１歳）

・家族関係：母親は保育園の調理場の仕事を午後１時まで勤めている。話せばものわかりはよく「下の子を生まなかったほうが良かった。」とT君のことを悩んでいることがうかがえた。父親の仕事は不安定である。兄・本人・弟と年がずいぶんはなれている。両親にとてもかわいがられて育っていたが，弟が生まれ情緒不安になったかもしれない。同じ敷地内に祖母が住んでいるが，あらっぽい方言で子供を叱りつけているようである。

・教育方針：母親が忘れ物がないようにまめにメモ日記を点検し，宿題も毎日かかわってやっている。父親は体罰で言い聞かせたり，時には祭りに連れて行ったりかわいがっている様子もうかがえる。甘さと厳しさが両極端なような気がする。

(イ) 幼稚園での様子

・幼稚園の頃は，遊び中心なので十分個性が発揮できたようである。たとえば，園行事で太鼓をたたき活躍した。また大工仕事が好きでよく木ぎれと金槌を持ってげた箱を作成した。しかし，園外ではある母親からかってに家に上がり込んで自分中心に遊び，子供が恐怖を持っているとの訴えがあった。（幼稚園担任より）

(ウ) 学校での様子

・友　　人：学級では一人遊びが多く，折り紙を女子に折ってもらったり落書きノートに絵をかいたりしている。遊び時間は，隣のクラスのいとこの子と運動場でボール遊びし，登下校はいつもいっしょに行動している。

・性　　格：集団行動の時は常に担任の手をにぎったり，子供達のノート点検の時は担任の背中にしがみつくことが多く，憎めない。人前で目立つことが好きで朝や帰りの会・音楽の授業中などよく指揮をした。喜怒哀楽が激しく，物を投げたりクラスの子を傷つけたり自制心が育っていない。

④ 支援方針

(ア) カウンセリング・マインドを生かした指導

・写本は好んでやるので「がんばりノート」（８マス）を作らせ，一冊目が終わったら賞状を与え成就感を味わわせる。

・朝や帰りの会，音楽・学活などに指揮や踊りを喜んでやったり，短縄の前回しでチャンピオンになったり自己存在感を実感させていく。

・家庭連絡は悪いことはさけ．頑張ったことを多く記入する。母親はT君の学習面にかかわりを毎日もつように努め，おふろなどスキンシップを常に心がけるように参観日などを利用して話す。

(イ) 学級の人間関係のための指導

・担任におんぶされたり，しがみついたりすることを好むのでそれを受容していると，クラスの子供達も恐がらずに隣の席やグループになる子がでてきた。

・月一回の大清掃で草刈作業を汗だくになりながら懸命にやったことや授業中姿勢よくていねいに書いていることなどをみんなの前でほめ，T君を認める学級の雰囲気作りをすると，勉強を教えてあげたり折り紙や絵かきなどをいっしょにする子がでてきた。
・Y君やU君の暴力のために登校をしぶることがわかり，T君に二人の気持ちを伝えるとその後はやらなくなった。Y君にもU君にも，今後暴力をふるうようなことがあったらすぐ先生に言うように話したら，元気よく登校するようになった。

⑤ 支援経過

月	事実の記録	教師のかかわり
一学期（四・五月）	授業中席を離れ大声を出したり，黒板に落書きをしたり落ち着いて学習することができない。他のクラスへ行くことも度々ある。学習がいやな時は，教室の目の前にある花壇の散水や土を耕したりしている。	「絵本・積木・折り紙・絵かきなど好きなことしていいよ。」「みんな勉強を頑張っているので，T君も頑張ろうね。」「T君は，3月31日生まれで1年3組では1番下の弟なんです。だからみんながいろんなことをやさしく教えてあげると，T君もだんだんやさしくおりこうさんになると思います。」
	授業中や休み時間など学校生活の中で毎日クラスの子供達の頭・胸・腹などをたたいたり，首をしめたりする。	「どれくらい痛いのかおかえしされてごらん」とクラスの子供達におかえしをさせるが，本気でたたく子はいない。「1年3組は優しい子ばかり集まっていますね。」
	音楽や学活の時間などなかなか友達とパートナー作りができない。ジャンケンで負けるとやめたり，たたいたりしてしまう。	担任と手をつないだり，ジャンケンをしてると，子供達が集まってくるので「三人でも四人でもいいよ。」と仲間を増やしてやる。
六月	母親が授業参観日のため乱暴せず学習した。父の日のプレゼント作りも頑張り，母親を見ながらはずかしそうに発表した。	「T君，上手にできたね。お父さんきっと喜ぶよ。」
	家で「がんばりノート」の宿題をよくやっていたので，授業中は集中してやるようになった。一冊目が終わり賞状をもらって大喜びした。	「がんばりノート一冊目よくかんばったね。おめでとう。」（ミニ賞状を与える。）

月	事実の記録	教師のかかわり
七月	七夕飾りをしているとき，女子に性的いたずらをする。 （担任にもよく触れる。）	手をぎゅっと強くにぎりしめて，「絶対そんなことやったらだめだよ。」 （個人面談で母親に話し，市の依託医へ行ってみることを相談する。8月〜12月）
	終業式の朝。K子の頭をふでばこでたたき三針縫うほどの怪我をおわせる。	「K子さんは，血がいっぱいでて頭が痛いんだって。お母さんといっしょに謝りに行ってよ。T君のお母さんも大変心配するよ。」
二学期（九・十月）	算数のテスト中「わからない。」と言って大声を出したり，席を離れて答えを見て書いたりする。	「わからないところは，そのままあけていていいよ。」 （いっしょに具体物を出して答えを書く）
	はげみ学習中，C君にはげみノートを投げ鼻血を出させたり，女子の頭を数人たたく。	「C君の顔をよく見てごらん。血がいっぱい出て，洋服にもついているよ。自分の鼻を強く摘んでごらん。痛いでしょ。」 （謝らせる）
十一月	Y君のお腹をたたき，Y君は登校をしぶる。U君はヘラを突きつけられ「クルサリンドゥ。」と暴言をあびせられ，登校をしぶる。 （個人面談にて親からの相談があった。）	「Y君もU君もいじめられるから学校に行きたくないって言っているんだって。T君は優しくなれるよね。仲良くしようね。」 「暴力を振るわれたらすぐ先生に話してよ。」 （T君U君に話す）
	のぼり棒がてっぺんまで上れるようになる。縄跳び前回しが100回できるようになる。	「てっぺんまで頑張って上れるようになったね。」 （全員で「ガンバレ」コールと拍手をする。） 「スゴイ！縄跳びのチャンピオンだね。」
	勤労感謝の会で希望してクラス代表となり体育館の舞台に上がり，手紙とペンダントを担任ににこにこプレゼントする。	「T君，ありがとう。先生の宝物にするよ。」 （頭をなでて握手する。）

月	事実の記録	教師のかかわり
十二月	暮れの大掃除で，教室のまわりの雑草取りを隣のクラスの所までやる。	隣の学級担任にも知らせて誉めてもらう。 「大掃除全員がんばったね。T君もいっぱい草取りがんばったよね。」
三学期（一・二・三月）	図書館貸出しカードが一枚終わり，ミニ賞状をもらう。	「おめでとう。本をたくさん読んでいるね。本が好きな子は，賢くなるし優しい子になるよ。」
	初めて残って日直の仕事をする。	「よくがんばりました。」のシールをメモ日記にはってあげる。
	修了式の日。新築のため転校。 S子も転校のため修了式後，母親が書類を取りに来る。T君は，いつもは「さようなら」と同時に一目散に帰宅するが，この日ばかりは「お母さんが来る。」となかなか帰らない。… 帰宅後，母親といっしょにお花を持って来校。	「大好きなT君へ・先生より」とクラスの子供達からの手紙を渡し，「Y学校へ行ってもがんばってね。大切な書類はなくさないで必ずお母さんに渡してよ。近いからまたM小学校にも遊びにきてね。」 学校を留守にしていたため，電話でお礼をしT君へ励ましの手紙を出した。

⑥ 支援を終えて

- 「T君は優しいね。」「よく頑張ったね。スゴイ！」「おりこうさんだね。」等の声かけを常に忘れず，またT君がしがみついたり，おんぶされたりすることを教師がより強く受けとめたことが，愛情の欲求を満たし，信頼関係が結べたのではないかと思う。心が安定する中で対人関係を学んでいったと考える。
- 教師がT君を受容することによって，学級全員がT君へ積極的に働きかけ，T君も指揮者やなわとびチャンピオン等になり，学級への所属感・自己存在感を強めることになったと思う。
- 暴力行為は認めないが，T君の育成歴などを個別的に理解し，また「統合された全体として生きている児童」として対応したことが心を開かせ，徐々に集団の中で社会性を身につけていったように思われる。
- できなかったことを一つ一つ指導し，励ますことによって文が書け，計算ができる等の成就感を味わい，次第に落ち着いて席に着き授業が受けられるようになったことは進歩である。
- T君をとおして，学級がよりまとまり一丸となったことや学級の個々がより優しさを発揮できたこと等を個々とのかかわり方がいかに大切であるか教師自身学ぶことが多い学級集団であった。

(4) 学級通信をとおして

誰でもほめられたり，自分が認められたり，自分の声に耳を傾けられると嬉しい，意欲もわいてくる。教師が一人一人を見つめ，児童の声や姿を反映したものを取り上げ，思いを込めて書くようにしたい。

① 「通信」発行のねらい

(ア) 自己存在感を与える

周囲の人から認めたり，頼りにされたりすることから生じてくる自分は価値ある存在（かけがえのない存在）であるという意識を感じとらせることである。

(イ) 個を生かし合う学級を作る

一人一人の差異と長所を互いにすなおに受け入れあい認め合う中で，一人一人の能力が発揮できる。

(ウ) 教師・児童・親が相互理解を深め，信頼し合う

「通信」をとおして教師や親の思いを伝えたり，児童・教師，親子，教師・親の相互理解を深め，信頼関係を結ぶ。

② 「通信」の内容

学級経営の方針や教師の思い，児童の良い点や頑張っていること，日記・感想・意見，諸々の作文，親の思いなど心温まる内容でありたい。

③ 「通信」作文の留意点

自己実現を援助するために，教育的配慮を生かすように工夫する。

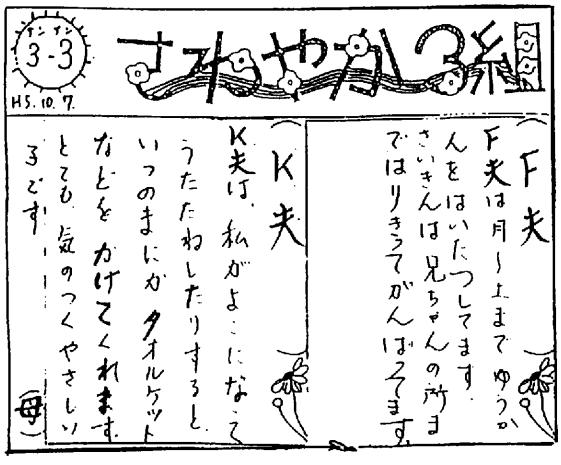
(ア) 目に見えないでいるもの，小さくてかえり見もされないでいるもの・かくれがちにしているいいものに，明るく感動的なスポットライトをあて，みんなの前でほめてやる。

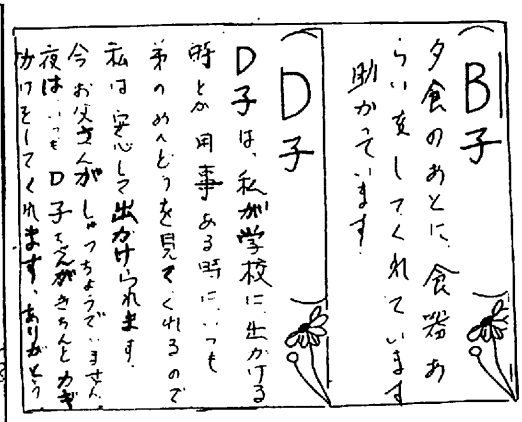
(イ) 同じ児童ばかりにならないように，全児童がスポットライトをあびれるようにする。

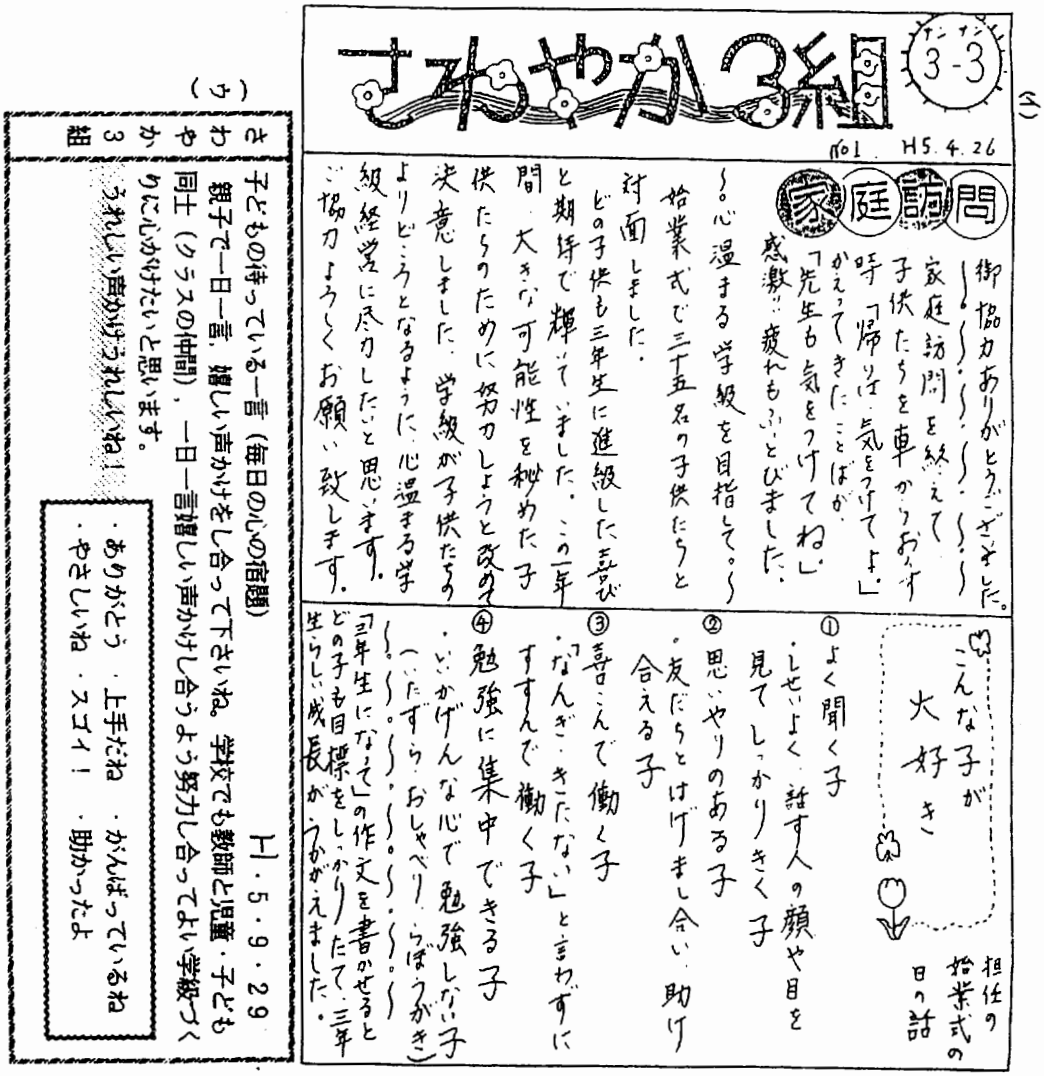
(ウ) 親子にとって，励みになり楽しみになるようにする。

④ 「通信」の事例

(ア)







さわやか3組

3-3

No1 H5.4.26

家庭訪問

御協力ありがとうございました。
家庭訪問を終えて
子供たちを車からおろす時「帰りは気をつけてよ」
かえってきたことばが「先生も気をつけてね」
感激…疲れもふっとびました。
～心温まる学級を目指して～
始業式で三十五名の子供たちと対面しました。
どの子供も三年生に進級した喜びと期待で輝いていました。この一年間大きな可能性を秘めた子供たちのために努力しようと改めて決意しました。学級が子供たちのよりどころとなるように心温まる学級経営に尽力したいと思います。
ご協力よろしくお願い致します。

こんな子が大好き

担任の始業式の日の話

① よく聞く子
・しせいよく話す人の顔や目を見てしっかりきく子

② 思いやりのある子
・友だちとけげんし合い助け合える子

③ 喜んで働く子
・「なんぎ・きたない」と言わずにすすんで働く子

④ 勉強に集中できる子
・とっかげんな心で勉強しない子
（いたずら・おしゃべり・らぼうがき）
～～～～～～～～～～～～～～～～～～
「3年生になって」の作文を書かせるとどの子も目標をしっかりたてて、三年生らしい成長がうかがえました。

H.5.9.29

子どもの待っている一言（毎日の心の宿題）
親子で一日一言、嬉しい声かけをし合って下さいね。学校でも教師と児童・子ども同士（クラスの仲間）、一日一言嬉しい声かけし合うよう努力し合ってよい学級づくりに心かけたいと思います。

さわやか（3組）

・ありがとう　・上手だね　・がんばっているね
・やさしいね　・スゴイ！　・助かったよ

嬉しい声かけ

⑤　「通信」を発行して

「さわやか３組」を配布すると，子ども達は目を輝かせ，まず自分の名前を捜し，次に友達の名前を見つけ話がはずむ。例えば，「先生，Ｆ君は新聞配達してえらいね。はじめて知ったよ。」「先生，Ｄ子さん弟思いで優しいんだね。」等，学校生活の様子しか知らなかった仲間のことが，通信によって仲間の良さを再発見することができる。自己存在感を持たせ，仲間の相互理解を深めることになったと考える。

父母からも「学級の様子や子どもの様子がよくわかり，いつも通信を楽しみにしています。」との声がある。わが子が学校生活の中でどう活動し，どんなことを考えているのか親の一番の関心事なのである。

成績の良否という単一の基準で人をはかるのではないことを父母共に相互理解し，子ども達をかけがえのない存在として育んでいきたい。

（資料2）

すわっか3組

3-3

H5 10. 15

友だちから見た

。よいところ

△なおしてほしいところです。

☺ よいところは、そのままつづけてのばしましょう。

😐 なおしてほしいところは、うちの人とも話し合って、なおすようにがんばりましょう。

（Y夫）

。よいところ

。まんざいがうまい。

。人をわらわせる。

。絵がおもしろい。

なおしてほしいところ

△ふざけるところ

（N子）

。りん車がうまい。

。うんどうしんけがいい。

。字がじょうず。

△人をちょっとたたく

（資料3）

（10/13）ぼくは、このごろわるい点しかとれないのでなやんでいます。

まえ帰る時に くやしいと

N くんと B くんと C くんと K くんに おんちばばあとにわれてしまいかえしようと思ったけど先生の言葉をおもへだしていかえしませんでした。でも おんちばばあという言葉がとてもくやしくてしょうがないです。

（10/13）ひゃ子先生とわかれるときさびしかった。なきそうになりました。

10月13日(水)

「おしゃべりノート」より

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

(1)　児童を理解するうえで最も大切なことは，外面的・評価的・判断的理解をするのではなく，T君をとおして共感的・心情的・内面的理解をすることによって教育的効果があることがわかった。

(2)　児童の内面を理解するために「おしゃべりノート」を実践し，表面的にとらえていた児童が悩みや優しさを持っていること等，常に揺れ動いている個々の内面を知ることができた。カウンセリング・マインドを生かした関わり方を学ぶことによって，児童とより親和関係を結ぶことができたと考える。

(3)　一人一人の個を生かすために学級通信を発行し，親との連携を深めた。子ども達は，通信を手にし，自分の名前を見つけた時の笑顔は，自己存在感を実感し生き生きと活動していると捉えることができた。学級通信は，教師・児童・親の心の架け橋となり，相互理解を深め信頼関係が結べたと思う。

2　今後の課題

(1)　児童は一人一人個性が違い，個々の発達に応じた関わり方が重要であり，教師自身の態度を高める必要がある。

(2)　児童に自己存在感を与えるための教師の指導として，朝の出会いから始まり，下校するまでの関わり方について，さらに研究を深めていきたい。

(3)　児童を父母共に相互理解し，児童の自己実現をめざして援助ができるようにしていきたい。

(4)　いつでも，どこでも，だれにでも肯定的理解が行えるように自己変革し，忙しい日々の中でも児童にカウンセリング・マインドを持って接することを心がけていきたい。

《引用・参考文献》

『小学校生徒指導資料７』	文部省		1991
『カウンセリング・マインドと教育活動』	木原孝博著	ぎょうせい	1990
『児童生徒理解の基本』	小泉英二・高橋哲夫編	第一法規	1986
『学級担任による教育相談の展開』	全国教育研究連盟編	東洋館	989
『学校教育相談・初級講座』	小泉英二編著	学事出版	1993
『自己存在感を高める指導』	市原市教育センター	研究紀要第152集	1993
『カウンセリング・マインドを生かす教師』	永瀬純三・宮本一史・石井明編著	ぎょうせい	1989
『カウンセリング・マインド』	尾崎勝・西君子共著	教育出版	1988
『図説学級経営』	田中雄著	東洋館	1992
『学校を楽しくする教師の卵たちのアイディア集』	福井之編学事出版		1990
『学校カウンセリング実践講座２』	牧昌見・高階玲治編	学習研究社	1991
『カウセリング辞典』	國分康孝編	誠信書房	1991